



新エネルギーへの 取り組み

心 あ つ た か ニ ュ ー ス

脱化石燃料の取り組みがエキサイトニュースにありましたので、ご紹介します。化石燃料を燃やし続けることが、大気汚染や地球温暖化などの環境破壊につながっている事実を無視できなくなりました。ことと、太陽光や風力を活用した発電技術が格段に進歩。自然エネルギーによる低コスト発電が可能となってきたこととによって、欧州について、米・日本でも、脱炭素の構造改革が進む見通しとなりました。深刻な大気汚染に苦しむ中国やインドなど新興国も脱炭素の目標を示すようになりました。ということとです。自然エネルギーによる発電コストの低下で、商業ベースで流通させられる自然エネルギーが増えてきました。ただし、自然エネルギーには1つ、重大な問題があります。自然まかせなので、発電量の調整がしにくいことです。また、需要地から遠く離れた場所で発電するものが多く、需要地（都市部）まで運ぶ送電線を確保するのが

困難という問題があります。電気エネルギーの最大の弱点は、「保存」運搬が簡単にはできないことです。特に、「保存」ができないことが重大問題です。この問題を解決する切り札の1つと考えられているのが、水素です。自然エネルギーによって発電した電気を水素に変え、水素を流通させることで、エネルギー循環社会を作ろうとする試みです。自然エネルギーから得た電気で、水を電気分解すると、水素が得られます。その水素をエネルギー源とする、エネルギー循環社会を作ろうという考えです。水素エネルギーを使う際、酸素と化学反応させます。そこで得られる電気を使います。それが、燃料電池といわれる発電システムです。そこで排ガスは出ず、水だけが排出されます。技術的に越えなければならぬハードルはまだたくさんあり、実現まで紆余曲折があると思えますが、2040、2050年をめどに、その技術革新・構造改革をやっていく方針を決める国が急速に増えており、今後、急速に技術革新が進むと考えられます。そして水素エネルギーで走る燃料電池車をトヨタ自動車は2020年12月9日に発売したMIRAIが注目

されています。トヨタのお家芸はコストダウン努力だそうです。自然エネルギーを使った発電から、グリーン水素を作り、自動車を水素で動かす。自動車を中心として製造業が強い日本株の価値が今後世界で見直されるきっかけとなるかもしれないということです。

編集後記

コロナの影響で、各企業が苦戦していることと思えますが、環境に良い取り組みを一般化させていくことに、お家芸をもった企業が日本をけん引していることに、感激しました。科学の力だけでは、できない。そこに向かっての努力が合わさると超パワーとなるように思えました。今後の新しいエネルギーの取り組みにも注目しつつ、企業も頑張ってくれて、いることに元気づけられました。